

ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	修正 使用 措置	感染症(PT)	出典	概要
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Vet Diagn Invest 2007; 19: 142-154	米国で牛海綿状脳症 (BSE) と診断されたウシ2例に関する報告である。症例1では脳幹の円筒状に海綿状変性及びPrP ^{Sc} の沈着がみられたが、症例2ではPrP ^{Sc} は検出されなかったが、明らかな空胞状の変化はみられなかった。ウェスタンブロット法で、症例1は典型的なBSE分離株と似た分子的特徴を示したが、症例2のPrP ^{Sc} は高分子量に位置する異常な電気泳動パターンを示した。両症例のプリオン蛋白遺伝子の配列を決定したところ、ウシについて過去に報告された配列の多様性の範囲内であることが示された。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PLoS ONE 2007; 5: e435	ハムスター順応性263Kスクレイビープリオンで土壌を汚染し、土壌中PrP ^{Sc} の存在をウェスタンブロットで、生物学的活性および感染性をハムスターパイオアッセイで分析した。同プリオンは少なくとも29ヶ月以上土壌中に存在し、汚染土壌または土壌の水溶性抽出液を接種したシリアンハムスターにおいてスクレイビーが誘発された。また土壌中PrP ^{Sc} 検出にはPMCA (protein misfolding cyclic amplification) 反応が利用できることが示唆された。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Transfusion 2007; 47: 1418-1425	PrP ^{TSE} のmisfolded protein diagnostic (MPD) アッセイは、TSE感染マウス、正常マウスおよびPrP ^{Sc} ノックアウトマウス由来の脳組織中で、ウェスタンブロットシグナルと相関し、異なったペプチド配列を持つ試薬ではnegativeアッセイシグナルであった。血漿又は血清に対して適用した場合には、MPDアッセイは未感染の対照と比較して、種々の実験的および自然TSE感染由来検体を区別した。MPDアッセイは、ヒト及び動物のプリオン病の前臨床及び臨床診断にあたり有用であると考えられる。
												異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Virol 2007; 81: 4305-4314	無細胞PrP変換法を用いてシカの慢性消耗性疾患(CWD)分離株に対するげっ歯類の感受性を調べたところ、一部のげっ歯類が感受性を有することが示唆された。これらの結果はCWD罹患シカの脳組織をげっ歯類の脳内に接種する実験でも確認された。シリアンゴールデンハムスターにおけるCWD分離株の総代では、平均潜伏期間が異なり、明らかな神経病理学的パターンを示す分離株を特定した。CWDは一部のげっ歯類に伝播し、少なくとも2種類のTSE分離株が存在する可能性が示唆された。